

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°26 ドメーヌ・ル・ブリゾー

生産地方：ロワール

新着ワイン2種類♪

VdF パタポン 2017 (白)

2017年は、前年同様春に遅霜が降りル・ブリゾーの畑は全滅…。今回はキャラクターなどその他のシュナンを全て集めて、パタポン白を仕上げている！ナタリー曰く、収量が極端に少なく途中猛暑もあったので、ブドウの過度な完熟を心配したが、実際は酸も糖も共にバランス良くゆっくりと成熟していったそうだ。ワインはパタポンらしく軽快で、エキスの旨味に透明感と清涼感があり、後から滋味深いミネラルがじわっと口に広がる！全体的に飲み口は爽やかだが、しっかりとしたミネラルの複雑味があるので、魚介はもちろん、クリームを使った白身の肉料理などにも相性が良さそうだ！

VdF キャラクター 2016 (白)

2016年のキャラクターは品質的に当たり年！4月終わりの遅霜と花ぶるいにより収量が4割落ちたが、収量が少なかった分、ひとつひとつのブドウが凝縮し、最終的にミネラルの旨味がぎゅっと詰まったワインが出来上がった！ナタリー曰く、霜の影響でブドウの成熟がバラバラだったが、収穫前後の穏やかな天気のおかげで、成長が遅れたブドウが完熟するまで早熟のブドウが腐敗せずきれいな状態だったことが、2016年のキャラクターの優れている点とのこと。ワインはアルコール度数が12.5%とそれほど高くなく、ピュアでエレガントだが、中身は塩辛い旨味と緻密でチョーキーなミネラルがぎゅっと詰まっていて余韻も長い！今飲んでもハイパフォーマンスだ！

ミレジム情報 当主ナタリー・ゴビシェールのコメント

2016年のロワールは、春と夏の気候が極端な年だった。冬は暖冬で春も比較的暖かかったため、ブドウの発芽もいつもより早かった。だが、その早い芽吹きが仇となり4月27日に襲った遅霜に最初の芽の多くがやられた。その後6月終わりまで不安定な天候が続き、シュナンの一部が花ぶるいに遭った。7月に入ると天候は一転、暑く乾燥した天候が続いた。7月の終わりには気温が40度を超える猛暑があり、一時はブドウの成長にもブレーキがかかったが、8月下旬に適度な雨が降ってくれたおかげで、再びブドウはゆっくりと成熟に向かった。

2017年のロワールは、2年連続霜の被害に遭った。冬のスタートは暖冬でブドウの発芽も例年より1ヶ月早かった。ブドウの芽が成長の勢いを増した4月終わりにマイナス7℃まで気温が下がり、畑はモルティエ以外ほぼ壊滅…。その後副芽が少ないながらも房をつけたが、主芽と副芽のブドウに熟成の差が出てしまった。5月はほぼ毎日雨が降り、追い打ちをかけるようにミルデューが畑に蔓延した。だが6月に入ると一転、雨の降らない乾燥した天気が8月の初旬まで続いた。途中猛暑もあり、いったんブドウの成長にブレーキがかかったが、中旬に適度な雨が降ったおかげでブドウの成熟が一気に進んだ。しかしながら、霜の影響によりブドウの成熟がバラバラだったので収穫日の決定に苦労した。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

ナタリーから、ジャニエールが遅霜により約 9 割の畑が被害に遭ったと聞き、状況を確認しに 5 月 31 日にロワールに向かった。

これはブリゾーの畑の写真。(写真①) ナタリーの話では、ブリゾーの被害が一番大きく、4 月に 2 回、そして 5 月の初めに 1 回霜に当たり、今年はブドウが全滅とのこと。畑全体を見ると、雑草がうっそうと生い茂っていて、ブドウの息吹がまるで感じられない…。ちなみに、畑の雑草は、彼女曰く、これからルローファッカをかけるためにわざと伸ばしているとのこと。(ルローファッカとはトラクターの後ろにローラーのようなものを付けて雑草を根元から押し倒していく農機のこと。これによって、土壌は雑草の根が残ることで耕したような柔らかい状態を保つことができ、また、日照りの時でも土壌の保湿性を保つことができるとされている。)



写真① 一番被害が大きかったブリゾーの畑



写真② ブドウの房が全く見当たらない

これがもう少し近づいて撮ったブドウ樹の写真。(写真②) 緑の新梢は出ているが、ブドウの房が全く見当たらない。背丈も 4 月初めくらいの高さだ。中には芽が出たばかりで柔らかく短いため、のように鹿に先端を食べられていた芽もたくさんあった。

霜被害の厄介な点は、後から伸びる新梢にブドウの実がつかないことが多いことと、伸び方が不均衡で、株の色々なところから芽が四方八方飛び出てくることだ。剪定で残した結果母枝から出た一番初めの新梢は当然発芽が一番早いので、霜が降りると一番最初にやられてしまう。その次に、通常は副芽と呼ばれる二番目の芽が新梢となり、それが生き残ると、主芽よりも確率は低いけど、まだブドウを付ける可能性がある。だが、今回はその副芽も霜で全滅…。

3 度目に出てくる芽はもうほとんどブドウを付けることはなく、(写真③) のように不規則に伸び始める。この新しい芽のほとんどが本来残す予定の芽ではないので、その中でも来年のために残すべき芽を選び、その他の余計な芽はどんどん落とさなければならない。

「霜の年は通常の年よりも芽掻きに倍の労力を取られる…。2017 年もそうだったが、収穫できないと分かっているながら、翌年のために作業をするのは精神的に本当に辛い…」とこの畑の状況を見ながらナタリーはため息をついていた。せめて南のブドウが順調であることを願いたい！(2019.5.31.のドメーヌ突撃訪問より)



写真③ 不規則に伸び始めたブドウ樹

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ